

Omdia Universe : AI支援ソフト ウェア開発、第1部 : IDEベ ースのツール、2026年

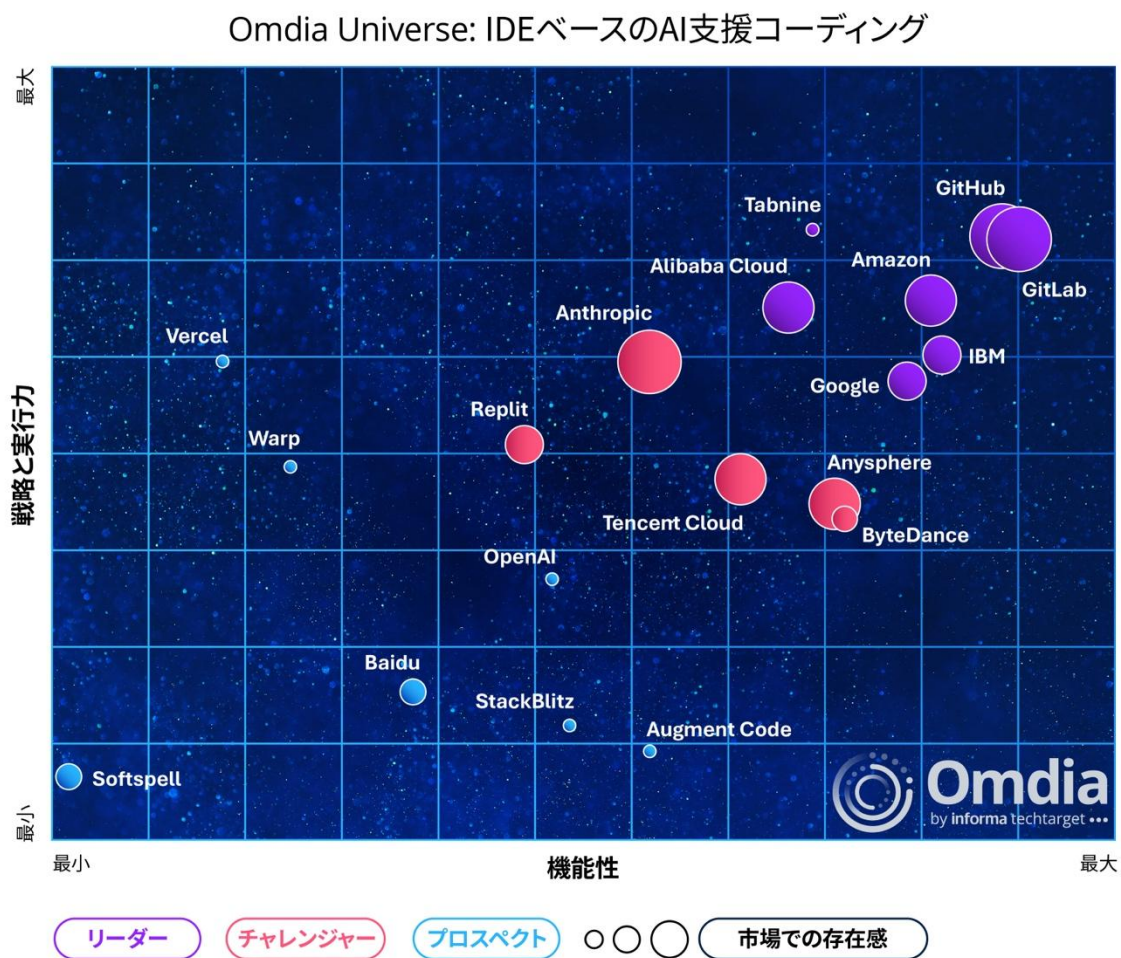
IBM

サマリー

カタリスト (触媒)

最先端の大規模言語モデル（LLM）によって生成されるコードの信頼性が、アプリケーション開発者がアプリケーションコードの大部分を機械に生成させることができるほどの精度に達したことで、AI支援ツールはソフトウェア開発を根本から変革しました。本Omdia Universeレポートでは、この技術的変革がもたらす影響について、市場セグメンテーション分析および統合開発環境（IDE）に組み込まれる主要ツールの評価を通じて検証します。

図1 : Omdia Universe、AI支援ソフトウェア開発、IDEベースのツール、2026年



© 2026 Omdia

出典 : Omdia

本レポートに収載されたベンダー全社に対し、本調査への情報提供を求めて連絡を取ったところ、50%が参加しました。Anthropic、AnySphere、Augment Code、Baidu、Google、OpenAI、Replit、StackBlitz、およびWarpは、参加を辞退したか、公開期限までにアンケートへの回答を完

了していませんでした。参加していないベンダーの評価は、公開情報、アナリストの見解、および Informa TechTargetの利用者から直接収集したカスタマーフィードバックに基づいています。

Omdiaの見解

はじめに

AIを活用したソフトウェア開発の分野は急速に進化しています。そのため、Omdiaでは現在、年次レポート「Universe」においてこのトピックを取り上げています。この市場は、大きく分けて以下の3つのセグメントに分類できます。

- **IDEベースのツール** : AIアシスタントツールは、独自のIDEを備えているか、あるいは Visual Studio (VS) CodeやIntelliJ IDEAなどの一般的なIDEにプラグインとして組み込まれています。IDEはプロの開発者にとって自然な作業環境であり、こうしたツールは一般的にプロの開発者を対象としています。ただし、ユーザーがアプリケーション要件を指定し、機械がコードを生成する「ノーコード」モードでアプリケーションを作成することも可能です。コードレビュー、テスト、デプロイはIDE内で便利に行うことができます。
- **純粋なノーコードツール** : このカテゴリーのツールは、ビジネス、エンジニアリング、または管理職のユーザーを対象としており、プログラミングの経験は不要です。ユーザーが要件を入力すると、機械がアプリケーション生成の全工程を自動化します。
- **ノーコード・ローコード・プロアプリ開発 (AppDev) プラットフォーム** : IDEがプロの開発者のニーズに合わせた一般的な環境を備えているのに対し、AppDevプラットフォームのカテゴリーでは、プロバイダーが独自の環境を自由に構築でき、通常は使いやすさを重視しています。AppDevプラットフォームは、特にグラフィカルな環境を使用してアプリケーションを定義する場合、通常、ノーコードおよびローコードのアプリケーション開発を網羅しています。また、グラフィカルな手法に熟練したプロの開発者も対象としています。そのため、Omdiaはこのツールを「ノー・ロー・プロ」のスキルセットを網羅するものとして分類しています。

本レポートはIDEベースのツールにのみ焦点を当てていますが、近日公開予定の関連レポート「Universe」ではAppDevプラットフォームについて取り上げます。

AIアシスタントツール

AIアシスタントツールは、LLMモデルと、LLMを囲み、ユーザーとLLMの間のインターフェースを提供するハーネスとなる要素の2つの重要な要素で構成されています。ハーネスの重要な機能は、LLMへのコンテキスト入力を強化し、可能な限り最良の生成出力を提供することです。コンテキスト強化の例としては、プライベートなコードベースを用いてLLMを強化する検索拡張生成 (RAG) の提供、組織のコーディング標準やアーキテクチャのコンプライアンスに関するコンテキストプロンプトの提供、および組織のナレッジベースを活用して関連情報を提供することが挙げられます。本レポートで取り上げているベンダーの1社であるTabnineは、競合ツールと連携できるように、自社のContext Engineを単体で提供可能な製品としています。

本レポートで取り上げるベンダーは、ツールユーザーに提供するLLMがそれぞれ異なります。一部のベンダーは、選定された少数の最先端研究所としか連携していません。主要研究所による上位LLMの最新リリースは、各LLM間の差を縮めていますが、最も重要な点は、信頼性と精度の水

準が向上したことです。その進歩は、本レポートの取材に答えた開発者たちが「相転移（フェーズチェンジ）」と呼ぶほどのものとなっています。つまり、人間の開発者の役割は、コードの大部分を生成するAIアシスタントを監督することにシフトしつつあるのです。執筆時点で、コーディング用としてよく取り上げられる上位3つのLLMは以下の通りです。

- **Anthropic** : Claude Opus 4.6 — 軽量版であるSonnet 4.6も、低コストで長時間実行されるタスクに適しているため推奨されています。Claude Opus 4.5は「ゲームチェンジャー」と評され、競合LLMやAnthropicのv4.6がこれに続きました。
- **OpenAI** : GPT 5.2 Codex — Codexバージョンは、コーディングエージェント、大規模なリファクタリング、移行、およびターミナルベースのタスク向けに大幅に最適化されています。
- **Google** : Gemini 3.1 Proは、自然な対話、リポジトリ全体の理解、そして強力なエージェント性能で高く評価されています。

なお、本レポートはLLM自体を評価するものではなく、最先端モデル上に構築されたAIアシスタントツールを評価するものです。

人間のソフトウェア開発者が担う役割の変化

現世代のAIベースの開発ツールは、ソフトウェア開発者を完全に置き換えることはできませんが、その生産性を向上させています。かつては開発に数週間から数ヶ月かかっていたアプリケーションも、今ではその数分の1の時間で作成できるようになりました。もう一つの側面は、AIがどのように遅延を削減できるかという点です。ソフトウェア開発ライフサイクル（SDLC）のワークフローにはボトルネックが存在する場合があります。例えば、タスクを完了した後、開発者はそれをレビューする適切なスキルを持つ開発者を見つけなければならないため、コードがメインブランチにマージされるまでに遅延が生じます。AIツールは、ワークフローを遅らせるコードレビューやその他のタスクを自動化することができます。

LLMは「ハルシネーション」を起こしやすい傾向がありますが、こうした問題は徐々に減少しつつあり、別のLLMを用いてコードレビューを行うというアプローチも取られています。AIツールがコーディングの大部分を担うことで、人間の役割は要件が満たされ、問題やバグが対処されていることを確認し、必要な指導を行うことに移行しています。多くの組織は、開発者人員を削減することで、AIによる生産性向上の恩恵を活用する可能性が高いとされます。しかし、コーディングエージェントの監督や、それに続く品質保証（QA）、テスト、デバッグの推進など、機械では代替できない重要な役割が存在するため、人員削減はごくわずかに留まる可能性も考えられます。

仮想AIエージェントの役割の変化

コーディングというタスクはSDLCの中で特定の位置を占めるものです。ただし、SDLC全体、さらにはコーディング作業そのものの中にも、バックエンドのネットワーク、データサービス、ミドルウェア、フロントエンドの設計・開発など、専門的なスキルへの引き継ぎが数多く存在します。AIアシスタントツールがプログラマー、すなわち仮想ソフトウェアエンジニアの役割を担う一方で、最新世代のエージェント型AIツールには、仮想ソフトウェアエンジニアリングチームとしての側面があります。オーケストレーションを行うAIエージェントは、タスクを専門の仮想エージェントに割り当て、複数のエージェントにまたがる主要なタスクの完了を調整します。この技術はまだ開発の初期段階にありますが、一部のベンダーはすでにこうした機能を提供していま

す。組織においては、仮想エンジニアと人間のエンジニアで構成される開発チームを擁し、人間が仮想労働者を監督・指揮するという方向性が主流になりつつあります。

AI支援ソフトウェア開発 : IDEベースのツール Universeの分析

市場の定義

Omdiaは昨年のレポートを継続して発表していますが、「ソリューションの機能性」に対する評価基準を更新しました。一方、「戦略と実行力」（UniverseチャートにおけるY軸）については、ほぼ変更はありません。ただし、「技術革新」のセクションについては、エージェント型AIの機能に関する質問を追加して更新されています。

ソリューションの機能性とは、ツールの技術的機能を指します。今年、Omdiaは要件管理タスク、計画、設計からチームおよび課題管理に至るまで、SDLC全体にわたる適用性を評価しました。ツールがエージェント型AI機能を備えるようになると、コーディングだけでなくSDLC全体のタスクを実行できるようになるため、評価の範囲が拡大したのです。

ここでは、Omdiaによるソリューションの機能性の評価についてさらに詳しく解説します。「戦略と実行力」に関するOmdiaの定義については、付録をご参照ください。

主要機能

- **ビジネス要件** - ツールは、非構造化文書から形式的かつ構造化された要件を生成し、曖昧さや重複などを排除して要件をフィルタリングできますか？
- **計画／設計** - 要件からユースストーリー、ユースストーリーの見積もりなどを生成。
- **仕様** - ツールは、非構造化または半構造化されたビジネス要件（Word文書、PDF、Jiraチケット、会議議事録など）を取り込むことが可能ですか？
- **コーディング** - 自然言語（NL）のプロンプトからアプリケーションを完成させるための大規模なコードを生成する、など。
- **テスト** - 要件から完全なトレーサビリティを備えたテストを生成する、など。
- **コードレビュー** - サポートされるコードレビューの種類：プルリクエストのレビュー、セキュリティ監査、パフォーマンス最適化、リファクタリングの提案、スタイル／標準への準拠など。
- **文書化** - AIツールが生成できるドキュメントの種類：インラインコードコメント、APIリファレンスドキュメント、アーキテクチャ図、ユーザーマニュアル、READMEファイルなど。
- **ナレッジベース** - 取り込むことができるナレッジソースの種類：社内Wiki、コラボレーション／チャットツールのアーカイブ、問題／バグチケット、コードコメント、会議議事録、設計ドキュメントなど。
- **デプロイ／DevOps** - CI/CDパイプラインの自動化、インシデントの自動解決などをサポート。

- **チーム管理** - アジャイルプロジェクトの管理、プロジェクト管理ツールやチケット管理ツールとの双方向連携など。
- **問題管理** - 問題チケット管理システム、自動トリアージ、問題の優先順位付け、チームメンバーへの割り当て、要約やその他の指標を表示するダッシュボードなど。

拡張機能

- **API** - APIおよびデータサービスの作成 : API管理およびゲートウェイ機能、プレーンテキストに基づくSQLの自動生成、SOAPおよびRESTサービス/API、Webサービス、GraphQL、gRPC、MCPサーバーなど。
- **アジャイル開発** - 高度なアジャイル実践 : 大規模なストーリーの自動分割、自動「完了の定義 (DoD)」チェックリストの適用、未処理のユーザーストーリーからのスマートな受け入れ基準生成、リアルタイムのサイクルタイム予測、ワンクリックでのリファクタリングとテスト、プルリクエストの説明文と自動変更履歴、リアルタイムAIペアプログラマー、コマンドによるキーボード操作など。
- **セキュリティ** - アプリケーションにおけるセキュリティおよびアクセス制御の開発をサポート : HTTPS、オンライン認証、オフライン認証、クロスドメインID管理システム (SCIM) など。
- **AI/機械学習 (ML)** - ハルシネーションを最小限に抑える対策、AIの出力を制御するガードレール、「Open Worldwide Application Security Project (OWASP) Top 10」の脆弱性を含まない生成コード、AI/ML開発スタジオ、AI/ML機能エンジニアリングのサポート、事前構築済みのAIサービスなどを備えています。

市場のダイナミクス

AI支援ツール市場のうち、IDEベースのカテゴリーは、一般的なIDE向けのプラグインや、提供されているIDE（通常はオープンソースのVS Codeのフォーク）で構成されています。前述の通り、こうしたツールはコンテキストエンジニアリングを実行し、作成されたプロンプトをLLMに供給するための不可欠なハーネスとして機能します。また、ツール内部でのLLMとのやり取りの仕組みも、例えば開発者が最先端のLLMと直接テキストチャットやプロンプトのやり取りを行う場合よりも優れています。こうしたハーネスは、LLM APIを通じて利用可能なネイティブ関数呼び出し (NFC) を活用しています。LLMは、タスクを完了するために他のツールやライブラリを呼び出す必要がある場合があります。NFCは堅牢な呼び出しプロトコルを提供し、どの外部関数やツールを呼び出すか、および正確なパラメータを指定する構造化された出力（通常はJSONオブジェクト）を生成します。これにより、この動作をシミュレートするために、自由形式のテキスト生成や多大なプロンプトエンジニアリングにのみ依存する必要がなくなります。

NFCは、有効かつ正しくフォーマットされた構造化データを生成する際に、はるかに高い信頼性と一貫性を提供します（特に複雑またはマルチツールのシナリオにおいて、リーダーボード上の成功率はプロンプティングのみの場合の50〜70%に対し、80〜95%以上となることが多い）。さらに、追加の解析やエラー処理ロジックを必要とする「ハルシネーション」や不正な形式の出力を削減するだけでなく、単一のレスポンス内で並列/複数のツール呼び出しをより自然に実現し、冗長な説明文を回避することでトークン使用量とレイテンシを低減します。また、出力は脆弱な正規表現やJSONの修正ステップを経ずに直接実行可能であるため、アプリケーションへの統合がはるかに簡単かつ堅牢になります。NFCは、LLMを単なるテキスト生成ツールから、自然

言語とプログラマ的なアクションをより正確に橋渡しできる信頼性の高いエージェントへと変革するのです。

Omdiaは、エージェント型ワークフローでの作業時におけるNFCの利点や、生成されたコードのセキュリティ審査の向上を考慮し、エンタープライズ向けのアプリケーションにおいて、開発者がLLMによるコード生成を直接使用しないことを推奨しています。

Omdiaは、IDEベースのAI支援開発ツール上位20社に調査を依頼しました。Universeにランクインしなかった唯一の人気のあるツールはWindsurfですが、これはDevin AIのメーカーであるCognitionが買収したものです。Cognitionのツール群はUniverseチャートでの順位が低すぎたためラインナップから除外され、本レポートでは19社のベンダーが評価対象となりました。

図2 : AI支援ソフトウェア開発におけるベンダーランキング : IDEベースのツール Universe

ベンダー	評価対象製品
リーダー	
Alibaba Cloud	Alibaba Cloud Qwen、Lingman、Model Studio
Amazon	Kiro
GitHub	GitHub Copilot
GitLab	GitLab Duo Pro、GitLab Duo Enterprise、GitLab Dio Agent Platform
Google	Gemini Code Assist
IBM	IBM Bob
Tabnine	Tabnine、Context Engine
チャレンジャー	
Anthropic	Claude Developer Platforms
Anysphere	Cursor
ByteDance	TRAE
Replit	Replit Agent
Tencent Cloud	Tencent Cloud CodeBuddy
プロスペクト	
Augment Code	Agent
Baidu	Baidu Comate
OpenAI	Codex
Softspell	Softspell
StackBlitz	Bolt.new Code
Vercel	vO
Warp	Agents

出典 : Omdia

市場リーダー

市場リーダー各社は、Universeチャートの両軸である「戦略と実行力」および「ソリューションの機能性」において良好な実績を示しています。Omdiaが選定したリーダー企業はすべて、この分野におけるエンタープライズ向けソリューションで市場から高い評価を得ています。リーダー企業のうちAnysphereとTabnineの2社は、この分野に専念するベンダーですが、その他の企業は

自社のソリューションポートフォリオの一環として、AI支援開発ツールを提供しています。技術機能の面では、OmdiaはSDLCのエンドツーエンド全体にわたる機能を追加しました。エージェント型AIの利用が増加していることを踏まえると、これらのソリューションの機能はこの点で向上しており、リーダー企業はこうした機能を実証することでチャレンジャー企業との差をつけています。Omdiaは、リーダー企業は潜在顧客の候補リストに自動的に含まれるべきであると提言しています。

市場チャレンジャー

チャレンジャーは、特定の市場セグメントに重点を置き、機能範囲がやや狭い場合もあれば、成熟サイクルの初期段階にあり、リーダーが保有する全機能の構築に至っていない場合もあります。適切な市場の勢いと機能の成熟度があれば、Omdiaは一部のチャレンジャーがリーダーのランクに浮上すると予想しています。チャレンジャーは、その強みが顧客の要件と一致する場合、候補リストに含まれるはずだとOmdiaは考えています。

市場プロスペクト

一般的に、候補ベンダーには以下の種類があります。

- 市場の動向に追いついていないレガシーソリューションを提供しているベンダー。
- 評価対象となる機能の幅広さを欠くスタートアップであるものの、ロードマップを持ち、リーダーに追随し、（成功すれば）次のランクレベルに参入する意向があるベンダー。
- 評価対象のソリューション領域と重複するソリューションを提供しているベンダー。言い換えれば、これは各ベンダーの得意分野（スイートスポット）ではなく、自社のソリューションを包含する最も身近な技術評価領域なのです。

本レポートにおいて、すべての候補ベンダーはAI支援コーディング領域を的確に対象としていますが、SDLC全体で評価されているサポート範囲の広さには若干欠けています。顧客は自身のニーズに応じて、このランクカテゴリー内で適切なソリューションを見つけることができる可能性があり、要件と利用可能なツールの機能を照らし合わせるために、さらに詳細な検討を行うべきです。

参加していないベンダーおよび一部参加のベンダー

一部のベンダーは本調査に完全には参加できませんでしたが、市場での存在感を考慮し、Omdiaは公開情報およびOmdiaアナリストの見解に基づき、こうしたベンダーの提供サービスを評価することを試みました。本レポートにおいて、当該ベンダーはAnthropic、Anysphere、Augment Code、Baidu、Google、Replit、StackBlitz、およびWarpです。Amazonについては、事実確認のみが可能でした。

市場での商機

AI支援ソフトウェア開発の利用は、現在では専用のAppDevプラットフォームやIDEプラグインを通じて主流となっており、開発者はこうしたツールの存在を無視することはできません。企業は従業員の生産性を向上させるためにこうしたツールを導入しており、ソフトウェア開発者の役割は変化しつつあります。最先端のLLMによって生成されるコードの信頼性は向上し、組織がその利用に高い信頼を寄せるようになってきました。その結果、AIが生産性の飛躍的な向上をもたらすため、新世代のツールに対応できるようソフトウェア開発能力を適応させられる企業にとつ

て、機会が増加すると考えられます。AIを最大限に活用する方法と、人間の開発者を最適に活用する方法を知ることが鍵となるのです。Omdiaは、ソフトウェア開発者を余剰人員と見なすことは正しい答えではないと考えています。むしろ、開発者を雇用してAIツールの監督や、ビジネスステークホルダーとAIツールの間を仲介する役割を任せる方が適切です。

市場の脅威

新世代のAIツールへの適応において、組織が陥りやすい落とし穴は、依然としてソフトウェア開発者に委ねられている役割に対する誤解です。人間と機械の間でタスクをどのように最適に配分するかについては、学習の段階を経ることになります。Omdiaは、AIを最大限に活用するためには、特にビジネス価値や要件が満たされていることを確認し、AIが生成したコードをテストするために、人間の開発者が主導権を握り続ける必要があると考えています。ソフトウェア開発者にとって、AIが雇用の安定に対する脅威となることは確かです。Omdiaは、ソフトウェア開発者が新世代のツールに慣れ、こうしたツールを活用して生産性を高める方法を学ぶことを推奨しています。

AIは、AIを活用したアプリケーション開発がもたらす機会を十分に活用できない企業にとって脅威となります。その結果、こうした企業は、動きの速い競合他社に市場シェアを奪われてしまうのです。AIという「魔神」はすでに解き放たれており、元に戻すことはできません。今や重要なのは、市場での競争力を維持するために、この技術をいかに最大限に活用するかを学ぶことです。

市場の展望

最先端モデルとその活用を可能にするAIツールの進化のペースを考慮すると、OmdiaはAI支援開発ツールの機能性が今後も拡大し続けると確信しています。その成長は、SDLCのエンドツーエンドの全工程を網羅し、要件から完全なアプリケーションを構築するようAIツールに指示できるエージェント型AI機能にまで及ぶでしょう。しかしながら、Omdiaはアジャイル開発から得た教訓を軽視すべきではないと提言します。ソフトウェア開発は、コンピュータプログラミングと同様に、人間同士のコミュニケーションが不可欠な分野だからです。ビジネス要件を理解し、何がビジネスに価値をもたらすかを把握することは極めて重要です。したがって、現在および近い将来のAI世代においても、人間の開発者の役割は依然として必要不可欠であり続けるでしょう。

ベンダー分析

注記：ベンダープロフィールは、参加しているベンダーについてのみ提供されます。

ベンダーの表彰

ベンダー分析セクションでは、ベンダーに対して2種類の表彰が授与されます。

- **ベスト・イン・クラス**の表彰は、本Universのトピックを構成する各評価カテゴリーにおいて、最高得点（単独首位、同点首位、または最高得点から1%未満の得点）を獲得したベンダーに授与されます。
 - コア開発
 - 拡張機能
 - ソリューションの広範性

- 戦略とイノベーション
- 市場の勢い
- ベンダーの実行力

- トップティア賞は、同一の評価カテゴリーごとに、比較グループ内のスコアの上位三分位点（上位3分の1）に入るベンダーに授与されます。

IBM（Omdiaの推奨度：リーダー）

IBMは、エンタープライズユーザー向けの高度なソリューションを提供しているため、候補リストに加えるべき企業です。

IBM Bobの概要

AIファーストの統合開発環境（IDE）であり、モダナイゼーション支援ツールでもある「IBM Bob」は、特にエンタープライズ規模の課題に対応するために設計された、IBMによるAI支援ソフトウェア開発への先進的な取り組みです。Bobは、従来のコード補完ツールを超えた存在として位置付けられており、開発者の意図、リポジトリ全体のコンテキスト、組織のコーディング標準、およびセキュリティ・コンプライアンス要件を理解するAI開発パートナーとして設計されています。VS Codeをベースにした独自のIDEを備えており、Bob-Shellは同じAI支援機能をターミナルにも拡張します。Bobはエージェント型ワークフローを提供し、AIが能動的にタスクを計画、承認待ちのToDoリストを生成、多段階プロセス（設計、コーディング、リファクタリング、テスト、ドキュメント作成など）を実行、意図を理解したコードレビューを実施、脆弱性を早期に検知し、モダナイゼーションの取り組みを加速させます。IBM社内での導入は順調に進んでおり、4万人以上のIBM開発者が、単調なタスクを自動化し、より付加価値の高い業務に集中することで、生産性を約45%向上させたと報告されています。

主な差別化要因は以下の通りです。

- エンタープライズ環境への深い対応力
- タスクと費用対効果分析に基づく基盤LLMの自動選択
- トレーニングデータの権利侵害がないことが保証されたIBMのGranite基盤モデルの使用
- ドメイン固有のタスクに向けた微調整
- ハルシネーションを最小限に抑え、安全な出力を保証するガードレール
- メインフレームのIBM ZおよびIBM iにおけるCOBOL、PL/I、RPG、アセンブラを含む、エンタープライズ向けアプリケーションのモダナイゼーションにおける専門的な強み

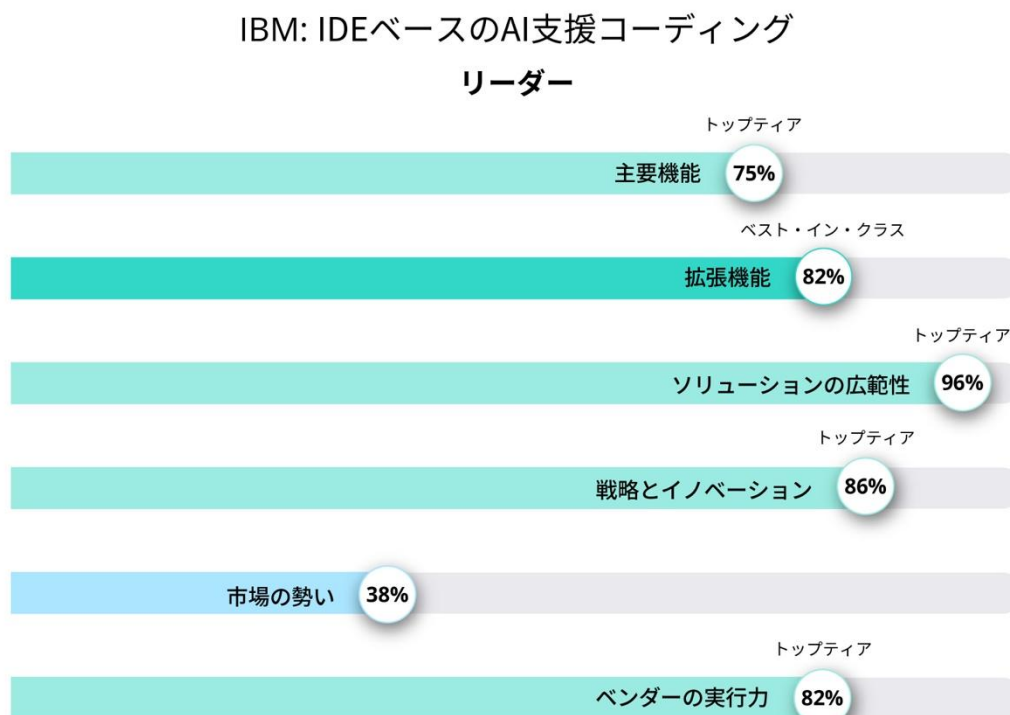
既存のプログラミング言語を活用するか、Javaベースの、アーキテクチャが適切に設計されたオブジェクト指向ソリューションへと変換することで、インプレースでのモダナイゼーションと最適化をサポートします。規制産業向けのハイブリッド、オンプレミス、およびエアギャップ環境でのデプロイオプションは、2026年第3四半期に提供される予定です。

Bobはまた、理解、説明、生成、リファクタリング、変換、テストを統合されたワークフローに集約するエージェント型エクスペリエンスもサポートしています。モノリスからマイクロサービスへの変換、フレームワークの移行（Javaのアップグレード、StrutsやJSFからReactやAngularへ

の移行など）、およびSDLCの完全自動化といった、複雑で文脈に依存するエンタープライズシナリオを処理することで、一般的なアシスタントの枠を超越するものです。まだ一般公開されたばかりではありますが（言語サポートの拡充、統合の深化、自律的なエージェントの追加などが計画されています）、**Bob**は信頼性、ガバナンス、およびエンタープライズ専門知識が不可欠な、規制対象の大規模環境において特に卓越して機能します。全体として、**IBM Bob**は以下の点で際立っています。

- エンタープライズ向けアプリケーションのモダナイゼーション
- セキュリティ
- 知的財産（IP）の保護
- 深いエージェント型自動化
- 静的解析による広範な洞察
- 動的コード解析機能
- 規制対象かつ大規模な環境におけるライフサイクル全体のカバー

図8 : Omdia Universeの評価 – IBM



戦略とイノベーション 強み

- 責任あるAIとマルチモデルオーケストレーションを強く重視し、精度、パフォーマンス、コストの最適化を図ります。
- 精度の向上とハルシネーションの低減に向けた微調整機能を提供しています。
- エージェント型AIワークフロー、特にメインフレームやレガシーコードベースにおいて優れた性能を発揮します。
- COBOLからJavaへの移行など、専門的なモダナイゼーションにおいて独自の強みを持っています。
- 静的および動的なコードインサイトを提供し、企業全体にわたる可視性を実現します。

市場の勢い

強み

- 長年にわたり事業を展開するベンダーであり、巨大な世界規模を誇ります（数千社のパートナーやSI企業、主要地域すべてをカバーし、AWS、Microsoft、Red Hat（同社が所有）といった強力なパートナーシップを有しています）。
- ダイレクトセールスや技術パートナーシップを通じて、大企業顧客をターゲットとしています。
- 関連するアナリスト評価においてリーダー的存在です。

制約

- 本レポートの公開時点でBobは一般提供（GA）を開始していますが、IBMは現時点で顧客アカウントを公表していません。

ベンダーの実行力

強み

- 堅牢なセキュリティ機能を備える、優れたエンタープライズ向けの実行力を提供します。
- コストメリットを考慮したLLMの自動選択機能を備えています。
- IBM Cloudを通じて高可用性とスケーリングを実現します。
- 大規模なエンタープライズ向けモダナイゼーションを提供します。
- また、ハイブリッド、オンプレミス、エアギャップ環境でのデプロイオプションも提供しています。

制約

- 請求およびSLA解決時間の詳細については、現時点では情報が限られています。
- 同業他社による評価についても、現時点では限られた情報しかありません。

ソリューションの広範性

強み

- 言語サポート（COBOL、RPG、PL/Iなどのマイナーなレガシー言語を含む）が極めて幅広い。
- SDLCの全工程を網羅しており、計画、設計、コーディング、テスト、ドキュメント作成、保守、およびモダナイゼーションに強みを持ちます。
- RAGコードベースの取り込みを通じて、強力なコンテキスト理解機能を提供します。
- 自然言語インタフェース（NLI）とロールベースのアクセス制御を提供します。

制約

- 分析、ダッシュボード、パフォーマンス監視は、包括的なエンドツーエンドのKPIというよりは、モダナイゼーションに重点を置いています。
- コンポーネントやコネクタのカatalogはありますが、その範囲は広範ではありません。

主要機能

強み

- IDEやコードベースからのコンテキストを含むコーディング機能は傑出しています。
- スニペット作成から大規模なコード生成、リファクタリング、コード最適化まで対応しています。
- 安全でエンタープライズ向けのコード自動化を重視しています。
- 自然言語（NL）やユニット、統合、セキュリティテスト、エッジテストケースを通じたテストに優れており、実行可能なテストを生成します。
- インラインコメント、README、サンプルを含むドキュメントが充実しています。
- レガシー言語のサポートを提供しています。
- パフォーマンス、リファクタリング、セキュリティに関するコードレビューを実行します。

制約

- 単一障害点やスコープの変更といったボトルネックを特定することはできません。

拡張機能

強み

- REST、SOAP、GraphQL、gRPC、OpenAPI、auto SQL、モックAPIなどのAPIおよびデータサービスが非常に強力です。
- 幅広いデータベースおよびクラウドサポートを備えています。
- セキュリティ、プライバシー、およびコンプライアンス（GDPR、PCI、HIPAA、SSO、SAML、MFA、脆弱性スキャン、機密コンピューティングなど）の機能が優れています。
- コード変換、モダナイゼーション、ガードレール、ハルシネーションの最小化などのAI機能が強力です。

付録

方法論

Omdia Universe

Omdiaの「Universe」における厳格な調査方法は、以下のステップで構成されています。

- Omdiaのアナリストが、Omdiaの市場予測データとエンタープライズインサイト調査データを使用して、市場に関する徹底的なレビューを実施します。
- Omdiaが、市場にとって現在および今後12～18ヶ月の間に重要であると考えられる能力、属性、機能のマトリックスを作成します。
- ベンダーへのインタビューを行い、現在のソリューションと将来の計画について詳細なブリーフィングを行います。
- アナリストは、このブリーフィングに加えて、業界イベントやユーザーカンファレンスから得た他の情報も補足します。
- Universeが、Omdiaの他のアナリストによるピアレビューを経たうえ、専門の編集者チームによって校正されます。

採用基準

市場で認知され、地理的に広く利用可能かつ業界横断的に適したソリューションを有するベンダーは、本「Universe」への参加を招待されています。スタートアップ企業については、極めて優れたソリューションを有し、市場リーダーとなる可能性を秘めている場合に選定対象となっています。

Universe評価

Omdiaは概要をまとめています。以下は、主要なソリューション機能を反映し、OmdiaによるAI支援ソフトウェア開発ソリューション比較の評価の根拠となるトピックです。

ソリューションの機能性

前述の「AI支援ソフトウェア開発 : IDEベースのツール Universeの分析」というセクションでは、UniverseチャートのX軸で評価されたソリューション機能の概要をまとめています。

戦略と実行力

UniverseチャートのY軸で評価される要素は以下の通りです。

市場の勢い

- 企業および製品の沿革と成熟度
- ネットプロモータースコア（NPS）（入手可能な場合）

- グローバルな展開範囲
- 垂直・水平方向の焦点
- 収益と年間成長率
- 顧客に関する概要的な質問

戦略とイノベーション

- 技術革新
- ロードマップ
- ライセンス
- ターゲット市場とユーザー
- デプロイオプション
- 競合との差別化

ベンダーの実行力

- パートナーおよびシステムインテグレーターのエコシステム
- テクノロジーパートナー
- カスタマーサポート
- ROI
- 顧客間（ピアツーピア）スコア

市場浸透度

Universeチャート上の円の大きさ（Z軸）は、以下の指標を表しています。

- 収益に基づく指標

参考文献

[*Omdia Universe : No-Low-Pro AppDev Platforms, 2025*](#) (2025年5月)

[*Omdia Universe : No-Low-Pro IDE Assistants, 2025*](#) (2025年5月)

[*Omdia Market Landscape : AI-Assisted Software Testing*](#) (2025年9月)

[*Omdia Market Radar : AI-Assisted Software Development, 2023–24*](#) (2024年1月)

[*Omdia Universe : No Code, Low Code Solutions, 2023–24*](#) (2023年9月)

[*Generative AI : The impact of AI-based autocoding on software development*](#) (2023年3月)

著者

Michael Azoff、クラウドおよびデータセンタープラクティス担当、チーフアナリスト
askananalyst@omdia.com

引用ポリシー

Omdiaの調査とデータの外部引用と使用については、citations@omdia.comにご要請ください。

Omdia コンサルティング

本分析が、見聞広く、想像力に富んだビジネス決定に役立つことを願っております。さらにご用件がある場合には、Omdiaコンサルティングチームがお手伝いをいたします。Omdiaのコンサルティングの役割の詳細は、直接consulting@omdia.comにご連絡ください。

著作権表示と免責事項

本文書で参照されているOmdiaの研究、データ、情報（「Omdia資料」）はInforma TechTargetやその子会社・提携会社（「Informa TechTarget」と総称）またはサードパーティのデータプロバイダーが著作権を所有する知財であり、Informa TechTargetが公表するデータ、リサーチ、意見、見解を示しています。これらは必ずしも事実の記載ではありません。

Omdia資料は原本の公表日以降の情報や意見を反映したものであり、本文書の日付以降の情報や意見を反映したものではありません。Omdia資料で表明された情報や意見は予告なく変更される場合がありますが、その場合でも、Informa TechTargetはOmdia資料および本出版物を更新する義務や責務を負いません。

Omdia資料は、「現状有姿」の状態で提供されます。Omdia資料に含まれる情報、意見、結論の公正さ、正確さ、完全さ、正しさについては、明示的であれ示唆的であれ、いかなる約言や保証も行いません。

法規によって認められる最大範囲において、Informa TechTargetおよびその提携企業、役員、執行役員、社員、代理人、サードパーティのデータプロバイダーは、（過失または怠慢により生じた一切の賠償責任を含め）このOmdia資料の正確さ、完全さ、または、使用に関連したいかなる賠償責任も負いません。Informa TechTargetは、Omdia資料に基づいて／依拠して行われた一切の取引、投資、商業的決定またはその他の決定に関して、いかなる状況であれ、決して賠償責任を負いません。

連絡先

omdia.com

askananalyst@omdia.com

